

## はじめに 要旨 序文の書き方

論文の場合、最初に以下のことを記述すること

1. 論文を書くにいたった動機
2. 論文で明らかにしたいこと
3. 論文の目的
4. 論文で行う分析、議論すべきこと
5. 論文の構成

### 記述例

<p><b>要約</b></p> <p>本論文では収入と消費の関連性について議論する。これらの関連性には、一般的に提唱されているケインズ型の消費関数がある。この消費関数がデフレ経済とインフレ経済では大きな差があるのかを家計調査における家計の収入と消費の時系列データを用いて検証していく。</p>	<p><b>要約を書く場合</b></p> <p>本論文で何を明らかにしようとするのかを3～4行程度書く</p>
<p><b>はじめに</b></p> <p>現在の日本経済はデフレ経済に陥っている。最近の月例経済報告によると持ち直しの兆しがあるものの依然として状況は変化していない。また秋の衆議院選挙により小泉政権が継続されることによってさらに不良債権処理などが加速されるとの見通しもある。デフレ（Deflation）の定義は「モノの価格が下がること」である。消費者がモノを購入する価格、つまり消費者物価が下がることは歓迎すべきことではあるが、デフレ経済の根本的な原因はモノが余っていることである。よって生産も少なくなることにより賃金の減少や失業が高くなるなどの問題点がある。賃金の減少が物価の下落以上に大きければ収支バランスが悪くなるため、物価上昇率と賃金上昇率が生活水準に大きく関連する。現在の日本経済はこのバランスが崩れているため生活する構造も変化していると思われる。</p> <p>一般的に消費と収入の間にはケインズの提唱する消費関数という考えがあり、線形関係が強いと言われている。ただし、安定的なインフレ経済であった1995年ぐらいまでとデフレ経済が深刻化したそれ以降では経済構造が変</p>	<p><b>はじめにを書く場合</b></p> <p>テーマに関する現状などの説明</p> <p>論文のテーマを選んだ理由</p> <p>テーマの問題点</p> <p>などを列記する</p> <p>論文で明らかにしたいこと</p> <p>論文の目的</p> <p>をまとめる</p>

<p>化したために消費関数も変化しているように思われる。そこで家計調査における収入、消費支出に関する項目について多角的な側面から分析することとする。</p> <p>本論文の目的は家計における収入と消費の動向を分析し、デフレ経済とインフレ経済の違いを探ることにある。そこで2章では消費動向を調べるため、時系列データを用いて10大費目別消費支出に対して主成分分析を行い、費目別の変化も考慮に入れた動向を探る。3章では都道府県の特徴を探るため都道府県別10大費目別消費支出に対する主成分分析を行う。4章では消費と支出の関連性を調べるため収入と消費支出に対する回帰分析を1995年までと1995年以降に分けておこなう。さらに5章ではそれぞれの回帰分析の結果を比較して論じるとともに、残差に対して分散に関する検定を行い、構造変化の有無を探る。この論文を通してインフレ経済とデフレ経済には消費関数に大きな違いがあることが予測される。</p>	<p>具体的な分析方法 議論すべきこと 注意すべき点  を列記  論文の構成</p>
--	--